

2009 年度事業報告

特定非営利活動法人 道普請人

1. 事業の成果

2007 年度の設立以来 3 期目を迎え、事業規模を大幅に拡大することができました。(独)国際協力機構(コンゴでの業務)、国土交通省(フィリピンの業務)やアジア開発銀行(パプアニューギニアの業務)といった国内外の援助機関より業務を受託できたことが、その大きな要因の一つです。活動内容、団体が国内外に認められたと、手ごたえを感じているところです。次の業務受託につながるよう、成果を出していきたいと考えています。

ケニアでは、喜田理事、松本会員、本庄会員らを中心に、現地登録 NGO としての活動を充実させています。地域に根差し対象コミュニティとの信頼関係を築いたことが、本年度の活動成果につながっています。また、日本より 6 人の学生ボランティアを 2 回に分けて受入れました。

本年度は団体会員の社員 2 名にフィリピン、寄付団体社員 2 名にケニアでの活動をそれぞれ視察、現地活動を体験をしていただきました。

事業拡大にむけて総務、会計、広報活動を充実させるために国内業務に関して人的補強を行いました。国内で 4 回の展示活動を行い、さらなる活動紹介の機会につながるなど反響をえることができました。

助成金への申請も随時進め、次年度に向けて三井環境基金、日立環境財団より助成を受けることが決定しています。

2. 事業の実施に関する事項

1) 特定非営利活動に係る事業

1. 事業名、2. 事業実施国・地域、3. 事業期間、4. 従事者数、5. 事業実施の経緯、6. 事業目的、7. 裨益者、8. 事業費について下記にまとめる。事業内容、成果については別紙参照。

事業名)

公共心が少ないと言われる国、パプアニューギニアでの道路整備

事業実施国、地域)

パプアニューギニア独立国、イースタンハイランド州、サザンハイランド州、エンガ州

事業期間、従事者数)

2009 年 4 月より 2009 年 9 月、4 名(木村、福林、三宅、山本)

2009 年 10 月より 2010 年 3 月、2 名(木村、福林)

事業実施の経緯)

2005 年度より事業を実施してきた実績が認められ、アジア開発銀行とプロジェクトのマネジメント契約を締結した。2009 年より 2012 年までサザンハイランド州、エンガ州の 8 つのコミュニティを対象に事業を実施する。そのため、ゴロカに設置していた現地事務所をマウントハーゲンに移し、アジア開発銀行のプロジェクトを中心にした新しい活動を 2009 年 10 月より実施した。

また、理事長が研究代表者を務める科学研究費プロジェクトに、研究協力者として参画した。

事業目的)

公共心が少ないと言われる国、パプアニューギニアにおいて、「土のう」による農道整備、簡便インフラ整備手法を住民へ技術移転、定着させ自分達の道は自分達で直すという意識を広げる。道路整備とともに、収入向上、保健、ジェンダーに関する教育を行い、社会経済利益の向上を目指す。

裨益者)

イースタンハイランド州、サザンハイランド州、エンガ州の住民約 15,000 人

事業費)

2,457,315 円

事業名)

ケニアにおける官と民からの農村インフラ整備に向けた技術移転

事業実施国、地域)

ケニア共和国、トランゾイア県、ブンゴマ県、キシイ県、ニャンダルア県、ウアシンギシュ県、エルドレット・ウェスト県、エルドレット・イースト県、ウォレン県

事業期間、実施者)

2009 年 4 月より 2010 年 3 月、5 名 (木村、喜田、福林、松本、本庄)

事業実施の経緯)

昨年度に引き続き (独) 国際協力機構が実施する技術協力プロジェクト (小規模園芸農民組織強化計画) で、「土のう」を利用した農村インフラ整備に関する技術移転活動を実施した。プロジェクト終了にあたり、研修教材、DVD を作成し成果をまとめた。

ケニア国で設立・登録した NGO、COmmunity Road Empowerment (CORE) を母体とした活動も本格化した。トヨタ財団研究助成プロジェクトを実施、コミュニティへの道路整備技術研修を通じた人々の意識変化、影響を調査把握した。日本より学生ボランティア、団体会員社員を受入れ、現場体験・視察の機会を提供した。独自にオランダ ODA 実施機関より園芸作物生産、商業化に向けた技術研修に関する事業を受託し、実施した。

事業目的)

ケニア農業省を通じ農民グループへ「土のう」による農村インフラ (農道、小規模ダム) 整備手法の技術移転、定着化を図る。農道整備をきっかけとした農村社会開発を行う。

裨益者)

「土のう」による道路整備を実施したトランゾイア県、ブンゴマ県、キシイ県、ニャンダルア県、ウアシンギシュ県、エルドレット・ウェスト県、エルドレット・イースト県、ウォレン県の農村部住民

事業費)

3,295,830 円

事業名)

フィリピンにおける地方大学の普及活動を通じた技術移転

事業実施国、地域)

フィリピン共和国、イルコス・ノルテ州

事業期間、従事者数)

2009 年 4 月より 2010 年 3 月、2 名 (木村、福林)

事業実施の経緯)

2007 年度より、フィリピン、イルコス・ノルテ州、マリアノ・マルコス州立大学と連携した事業を実施している。国土交通省より「建設分野における草の根技術協力活動」として調査業務を受託し、事業を実施した。また団体会員社員を受入れ、現場体験・視察の機会を提供した。

事業目的)

現地州立大学スタッフへ雨季に対応した農村インフラ整備に関する技術移転後、大学の普及部門を通して周辺農村コミュニティの農村インフラ整備実施能力の向上を図る。

裨益者)

マリアノ・マルコス州立大学スタッフ、学生、大学周辺コミュニティ、約 1,000 人

事業費)

1,396,505 円

事業名)

コンゴにおける住民参加型道路整備に関する技術移転活動

事業実施国、地域)

コンゴ民主共和国、キンシャサ

事業期間、従事者数)

2009 年 10 月、1 名 (木村)

事業実施の経緯)

2009 年 3 月、タンザニアで行われた Labour Based Technology (人力施工での道路整備技術) に関するセミナーで当法人活動を報告したことがきっかけとなり、国際協力機構が実施する技術協力プロジェクトで道路整備研修を行う業務を受託した。

事業目的)

キンシャサ都市復興に向け住民参加型での道路整備を行い、小規模インフラ整備を進め同時に住民へ現金収入が得られる機会を提供する。

裨益者)

コンゴ民主共和国、キンシャサ住民、約 1,000 人

事業費)

517,015 円

事業名)

日本の道路整備の歴史 (中期) とりまとめ業務

事業実施国、地域)

日本

事業期間、従事者数)

2010 年 1 月より 2010 年 3 月、2 名 (木村、福林)

事業実施の経緯)

財団法人近畿建設協会より業務委託を受託

事業目的)

世界の開発途上国における道路整備は、交通の安全確保、人及び物流の活性化、物流コストの削減、

観光振興に貢献すること等から、経済発展、社会の安定において、重要な役割を果たすことになる。

そこで、我が国の過去から現在に至るまでの道路整備の歴史をひもとき、近年の道路、橋梁のライフサイクルコストへの配慮や、計画的な施設更新に至るまで、効率的な道路整備、維持管理が行われるために、必要で有効な社会資本整備手法を策定し、社会資本整備に役立てようとするもので、今後の良質な社会基盤整備を推進していくために、特に、予防保全・点検手法を含めた適切な維持管理体制が確立され、道路維持管理コストの縮減が図られること等を目的とするものである。

同時に、社会資本整備をあずかる行政機関での活用・配布、教材本として学校等への配布、又、緊急な支援が叫ばれるアフリカ案件も視野に入れた国際貢献として JICA 研修生等への配布を行い、社会貢献を目的とし公益事業の一環として実施するものとする。

裨益者)

JICA 研修生等約 200 人

事業費)

500,000 円

ケニア

- 1) 3つの農民グループについて、各々実動約14日間、約2か月にわたり技術指導を行い、合計で506mの道路を整備しました。「土のう」を敷設するだけでなく、暗渠排水、丸太橋、ため池堤防の整備など様々な工夫をし、通行性を確保しました。
- 2) 道路整備による具体的な経済効果(収穫物を市場へ運ぶ運搬費が下がる、集荷回数が増えるなど)が確認されました。
- 3) CORE Kenyaが、オランダ国ODA機関よりマンゴー生産研修を受託しました。
- 4) 日本の6名の大学生が、ヴィレッジステイや道直し研修など本団体活動を体験しました。



宿泊させていただいた村で道直しを手伝う大学生

ため池堤防を「土のう」を利用して構築しました。雨季に溜水している様子が確認されています。



この農民グループでは、ゆるやかな斜面地の道の約273mを整備しました。



フェンス用の金網を利用し暗渠排水(石の隙間から排水することで道路面を保護します)を設置しました。



地中に埋もれていたカルバートを掘り起こし、機能するように設置しなおしました。

施工延長(2009年9月末日現在)

	累計(m)	2009年度 前期(m)
パプアニューギニア	6,596	5,000
ケニア	2,382	506
ウガンダ	1,615	0
フィリピン	152	0
合計	10,745	5,506

会員情報(2009年9月末日現在)

正会員個人	66人
正会員団体	8団体
賛助会員個人	47人
寄付団体	1団体
寄付者	26人

問合せ先

NPO法人 道普請人
事務局: 福林良典
Tel & Fax : 075-706-5083
E-mail : info@michibushinbito.ecnet.jp
URL : <http://michibushinbito.ecnet.jp>

農村部の貧困に苦しむ人々の
やる気と自信を引き出すために

「自分たちの道は自分たちで直せる」

という意識を広げたい

2009年上半期活動概要



みちぶしんびと
NPO法人 道普請人

主な活動	2009					
	4	5	6	7	8	9
パプアニューギニア						
現地事務所スタッフ活動(三宅)						
現地技術指導、マネジメント契約調印(木村)					-	-
ケニア						
JICA専門家活動(福林)						
CORE Kenya(喜田、松本、本庄)						
学生現場見学受入(木村、喜田、松本、本庄、福林)						
現地打合せ(木村、喜田、松本、本庄、福林)	-					
東ティモール						
プロジェクト事前調査(木村)		-				
カメルーン						
京大研究班への農村インフラ整備協力/協力隊支援(木村)						-
タンザニア						
東アフリカ現地土木技術者との打合せ(木村)						-
国内						
広報活動(木村、岸田)						

総会

国際協力ステーション

主な広報活動

日程	内容
6月6日	国際開発学会春季大会で報告(木村)
6月17日	土木学会 web 版「行動する技術者たち」で木村理事長の活動を紹介
7月4日	土木学会誌 7月号で「土のう」による農道整備手法を紹介(福林)
7月25日	毎日新聞(大阪版)で団体活動を紹介
8月2日	京都駅、国際協力ステーションで展示(木村)
8月5日	雑誌ソコトで「土のう」による道路整備を紹介
8月20日	地盤工学研究発表会で報告(木村)
9月3日	土木学会学術講演会で報告(岸田)
9月15日	(財)国際協力システムで事業成果を報告(木村)
9月25日	タンザニア、国際会議(土木分野)で報告(木村)

助成事業等

事業名: 国際虹の輪基金事業、農村コミュニティの農村インフラ整備能力強化事業 (パプアニューギニア)

助成団体: (財)京都府国際センター

事業期間: 2009年4月から2010年3月

事業名: フィリピン国における土のうを利用した雨季対応型小規模インフラ整備支援調査(フィリピン)

発注団体: 国土交通省

事業期間: 2009年9月から2010年2月

事業名: Extending the Socioeconomic Benefits of an Improved Road Network to Roadside Communities (パプアニューギニア)

発注団体: アジア開発銀行

事業期間: 2009年9月から2013年3月

活動報告

パプアニューギニア

- 1) 現地事務所常駐スタッフが、CARE International(世界 70 カ国以上、事業規模 800 億円の世界有数の NGO)より委託を受け、地域の村人らと道直しを実践しました。
- 2) 理事長が研究責任者である科学研究費の研究プロジェクトとして一部活動することになりました。
- 3) 現地活動拠点をゴロカよりマウントハーゲンへ移設しました。
- 4) これまでの活動実績が認められ、アジア開発銀行とプロジェクトマネジメント契約を結びました。

(本団体活動が、国内だけでなく国際援助機関にも認められました)



すでに「土のう」による道直しを身に付けた村人が、自分の仲間に教えています。(CARE との協働)



全長 15km の道で、自分の担当範囲を整備する村人 (CARE との協働)

その他

- 1) 東ティモールで、日本大使館、現地道路省に「土のう」による道路整備手法について説明しました。
- 2) カメルーンでは京都大学が中心となっている科学研究費のプロジェクトに参画し、「土のう」を利用した土壌流出防止対策を提案しました。
- 3) ホームページを見て問合せしてきたカメルーンの協力隊隊員へ、現地で技術指導を行いました。

ケニア

- 1) ある農民グループでは、道路整備が進み子供たちが安全に道を通れるようになったことで、道の先に幼稚園が開設されました。
- 2) CORE Kenya (道普請人の会員がケニアで登録した NGO) が、オランダ国 ODA 機関より受託したマンゴー生産研修を実施しました。
- 3) 団体会員社員の方に現場を視察・体験していただきました。
- 4) 地元県知事が土のうによる道路整備の様子を視察しました。



開設された幼稚園



県知事に「土のう」を説明する農民グループ

コンゴ民主共和国

JICA プロジェクト「コンゴ民主共和国キンシャサ緊急開発調査」で「土のう」を利用した住民参加型道路整備の技術指導を行いました。



住民参加での道路整備の様子(コンゴ)

カメルーン

京大アジアアフリカ地域研究研究科、科研プロジェクトに、研究協力者として「土のう」を土壌流出防止策に適用、その効果を検証する準備活動を行いました。



土壌流出防止策として積まれた土のう(カメルーン)

国内活動

- 1) 展示による活動紹介を 3 回行いました。
- 2) 大学講義 4 回、一般講演 2 回、学会発表・講演 4 回、国際会議発表 1 回を行いました。

市民活動フェスタでブース訪問者へ説明している様子



施工延長(2010年3月末日現在)

	累計(m)	2009年度後期(m)
パプアニューギニア	6,596	0
ケニア	2,779	397
フィリピン	248	66
コンゴ	37	37
ウガンダ	1,615	0
合計	11,275	500

会員情報(2010年3月末日現在)

正会員個人	91人
正会員団体	14団体
賛助会員個人	56人
賛助会員団体	1団体
寄付者	37人

問合せ先

NPO 法人 道普請人
 事務局: 福林良典
 Tel & Fax : 075-706-5083
 E-mail : info@michibushinbito.ecnet.jp
 URL : <http://michibushinbito.ecnet.jp>

農村部の貧困に苦しむ人々のやる気と自信を引き出すために

「自分たちの道は自分たちで直せる」

という意識を広げたい

2009年下半期活動概要



みちぶしんびと
 NPO 法人 道普請人

2009 年度下半期活動内容

主な活動	2009			2010		
	10	11	12	1	2	3
パプアニューギニア						
アジア開発銀行出資プロジェクト、マネジメント活動(福林)						
科学研究費研究プロジェクト活動(木村・福林)						
ケニア						
CORE Kenya(喜田、松本、本庄)						
団体会員社員現場体験・視察(木村、喜田、松本、本庄、佐野)						
フィリピン						
国土交通省受託調査業務、現地活動(木村・福林)						
アジア開発銀行本部(マニラ)での打合せ(木村・福林)						
団体会員社員現場体験・視察(木村)						
カメルーン						
京大科学研究費研究プロジェクトでの農村インフラ整備協力(木村・福林)						
コンゴ民主共和国						
JICA プロジェクトで住民参加型道路整備指導(木村)						
国内						
広報活動(木村、岸田、佐野、福林、松本)						

主な広報活動

日程	内容
11月19日 ~28日	京都府国際センター、国際活動パネル展に出展(木村・佐野)
11月22日	国際開発学会、全国大会で発表(木村)
12月20日	京都市市民活動フェスタで活動紹介(福林・佐野)
1月29日	土木学会、第2回シビルフォーラムで活動紹介(福林)
1月30日	第6回京大地球環境フォーラムで講演(木村)
2月4日	地盤工学会関西支部出前授業として、堺市立美原中学校で活動紹介(福林)
2月6、7日	ワン・ワールド・フェスティバルに出展(福林・佐野・松本)
3月16日	国土交通省、建設分野における草の根国際協力活動として調査結果報告(木村)
3月25日	単行本、「パプアニューギニア—日本人が見た南太平洋の宝島」(花伝社)で活動紹介

助成事業等

- 事業名: アフリカ農村部の草の根ヒーローたちが地域を元気にする!
アフリカ農村部住民の中で芽生えた自分達で自分達の道を直すという意識と自信を、地域の活性化につなげる手法の開発(ケニア)
助成団体: 財団法人 トヨタ財団
事業期間: 2009年11月から2010年10月
- 事業名: 日本の道路整備の歴史(中期)とりまとめ業務
発注団体: 社団法人 近畿建設協会
事業期間: 2010年1月から2010年3月
- 事業名: フィリピン国における土のうを利用した雨季対応型小規模インフラ整備支援調査(フィリピン)
発注団体: 国土交通省
事業期間: 2009年9月から2010年2月
- 事業名: Extending the Socioeconomic Benefits of an Improved Road Network to Roadside Communities (パプアニューギニア)
発注団体: アジア開発銀行
事業期間: 2009年9月から2013年3月

活動報告

パプアニューギニア

- アジア開発銀行出資プロジェクト、「道路沿線コミュニティへの社会経済便益拡張計画」を始動させました。
- 理事長が研究責任者である科学研究費の研究プロジェクトに、研究協力者として活動を開始しました。



プロジェクトメンバー
(現地道路省内の仮事務所にて。
左端の男性が当法人が雇用した調達・経理担当の職員、他の二人は道路省と契約しているコンサルタント)

フィリピン

- 07年より技術移転活動を進めている地方大学を協力機関として、国土交通省より受託した雨季対応型小規模インフラ整備支援に関する調査業務を行いました。雨季の浸食対策として、ため池護岸補強工を行いました(表紙写真)。
- 団体会員社員の方に現場を視察・体験していただきました。
- 全国的に大きな被害をもたらした台風のために決壊した「土のう」の盛土が、直ちに現地の方のみで復旧されました。**自分たちの道を自分たちで直す、という意識と技術が浸透し実行されています。**



決壊時



修復後

洪水時でも盛土に大きな水圧がかからないよう、パイプを設置し「土のう」で埋戻した